

米倉教公の週間為替市場見通し

8/22 日週号

ドル/円予想レンジ 99.00 - 101.50 円

『イエレン FRB 議長講演に注目集まる！』

■今週の市場動向：ドル/円は4週連続陰線引け

今週のドル/円の週足では、2015年6月5日の高値を付けた後の下落基調で初めての4週連続の陰線引けとなった。週明け15日は、日本の4-6月期GDPが市場予想を下回ったが、反応は限定的で100.85円まで下落する場面があったが下げ渋った。16日は日本株安を受けて、本邦勢がお盆休暇で流動性が低下しているなか、仕掛け的な売りに押され一時99.53円まで値を下げた。その後、ダドリー米NY連銀総裁が9月利上げの可能性に言及したことで米長期金利の上昇とともに買い戻しが入り100円台を回復した。17日はアジア市場ではドルのショートカバーが入り一時101.18円まで戻したが、その後は株安などを背景にドル売りが再開した。18日は再び100円割れとなり99.63円まで下落した。財務省、金融庁、日銀の会合が開催されたことで、介入警戒感などからドル買い戻しとなり100.57円まで切り戻したが上値は重かった。19日は新規材料乏しく100円台前半でのみみ合い相場が続いた。

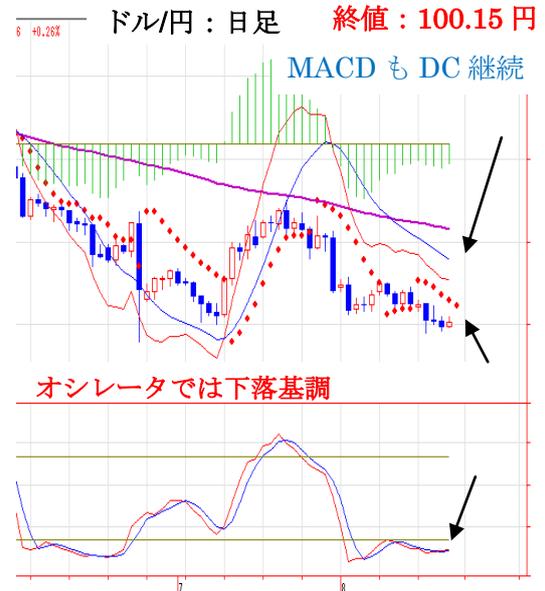
■来週の注目点：イエレン米FRB議長講演控え神経質な展開

日銀が7月の金融政策決定会合で株式ETF枠を6兆円に倍増したにも関わらず、16日に日本株下落したにも関わらず、後場から株式ETFの買入れが無かった。そのため、日銀の金融緩和に対する疑念が浮上し、仕掛け的な円買いを誘い99円半ばまで円高が進んだ。来週以降も日本株が下落した際に、日銀の株式ETFの買入れがないと円買い仕掛けが入りやすく注意が必要。最大の注目点は、26日にジャクソンホールでのイエレン米FRB議長が、利上げ時期についてどのような見解を示すかに焦点が集まる。市場の期待ほど利上げ遅延発言が見られないと、米国株安・原油安といった調整がしやすい。全般米長期金利が上昇し、ドルを下支えしやすい一方で、米国株が大幅下落となるとリスク回避の円買い波乱となる。反対に『9月利上げの先送り』と『12月利上げを匂わせる』といった玉虫色発言内容となれば、一方的な動きにはなり難い。

■テクニカル的な見解：イエレン米FRB議長講演まではレンジ相場の様相

8月16日付のシカゴIMM投機筋の対米ドルの差し引き持ち高で、円は前週の+48,831から+56,006へと円の買い持ち高は3週連続の増加となった。パラボリック（パラメータ：0.08、0.3）では、週初から売転し継続している。MACD（パラメータ：12、26、9）では、MACDとシグナルがデットクロス継続。ストキャスティクス・スロー（パラメータ：14、3、3、20、80）では、一時買われ過ぎ域から%Kと%D上向きとなったものの、再び下落基調に変化し底ばい状態。75日移動平均線は緩やかに下落基調維持。ストキャスティクスは売られ過ぎ域にあるものの底ばい継続が予想される。26日にイエレン米FRB議長講演まではレンジ相場を予想する。100円割れでは円高けん制発言などで一方的な円高にはなりにくい一方で、ドルの上値も重い展開。今週は1ドル=99.00-101.50円を想定する。

本レポートについての注意事項は巻末をご覧ください。必ずご確認ください。



★今週の気になる出来事

日経新聞でネガティブな中国記事が増えてきていることが気になる。18日は『中国重工業リストラ加速』、20日は『中国債務不履行急増』の記事が掲載された。にも関わらず、上海総合指数は3100ポイント台まで回復している。中国人民銀行による金融緩和期待もあるが、1年物国債から20年物国債金利までフラット化してきている。金融緩和をすれば再びバブルを助長する一方で、緩和をしなければ先々の景気減速感が強まるというジレンマに陥っている。日経新聞の記事は、中国ショックへの警告なのかもしれない。

商号：株式会社フジトミ

金融商品取引業者：関東財務局長(金商)第 1614 号

商品先物取引業者：農林水産省指令 22 総合第 1351 号,経済産業省平成 22・12・22 商第 6 号

加入協会：日本証券業協会、日本商品先物取引協会、一般社団法人金融先物取引業協会、

■くりっく 365 の売買手数料は 1 枚当たり最大でインターネットスタンダードコースが片道 0 円 (税込)、インターネットプレミアムコースが片道 648 円 (税込)、コンサルタント取引 (対面取引) コース及びコンサルタント取引 (対面取引) オンライン併用コースが片道 1,080 円 (税込) です。

■くりっく 365 における証拠金の額は、株式会社東京金融取引所が定める為替証拠金基準額で、原則週次で見直されます。その額は通貨ペアによって異なり、個人のお客様の場合最大で約 25 倍のお取引が可能です。

【くりっく 365－為替証拠金基準額の算出方法】

金融先物取引所が定める為替証拠金基準額は以下の計算式に基づき、算出致します。

計算式：為替証拠金基準額＝取引単位 (元本金額) ×4%× (5 取引日の為替清算価格平均値)

■「くりっく 365」には、以下のリスクがあります。

【価格変動リスク】

くりっく 365 は、取引する通貨の価格の変動に伴い差損が生じる場合があります、元本や収益が保証されるものではありません。建玉を維持するために追加で証拠金を差し入れる必要が生ずる場合があります。また、差入証拠金以上の損失が生ずる場合があります。

【レバレッジリスク】

くりっく 365 は、取引の額が預託された証拠金に比して大きくなるため、価格変動リスクその他のリスクがその比率に応じて増幅されます。レバレッジにより、その取引について必要となる証拠金の最大 25 倍までのお取引を行うことができます。

【信用リスク】

当社は、東京金融取引所を相手方とした「清算制度」に参加しており、お客様の証拠金は、全額取引所が区分管理しているため、原則として全て保全されています。しかし、当社の信用状況の変化等により支払いが滞ったり、破綻した場合には、返還手続きが完了するまでの間に時間がかかったり、その他不測の損失を被る可能性があります。

【システム障害リスク】

当社及び東京金融取引所のシステム、又はお客様、インターネット業者、東京金融取引所の間を結ぶ通信回線等に障害が発生した場合には、相場情報等の配信、発注・執行等が遅延したり、不可能になることがあり、その結果、不測の損失が発生する可能性があります。

【税制・法律等の変更リスク】

税制・法律又はその解釈等が将来変更され、実質的に不利益な影響を受ける可能性があります。

【金利変動リスク】

取引対象である通貨の金利が変動すること等により、保有するポジションのスワップポイントの受取額が減少、又は支払額が増加する可能性があります。ポジションを構成する2国間の金利水準が逆転した場合等には、それまでスワップポイントを受け取っていたポジションで支払いが発生する可能性もあります。また、一部の通貨においては、外国為替市場における当該通貨の需給関係等の影響を受けて、金利変動によらずにスワップポイントの増減や支払いの逆転が生じたり、場合によっては、金利の高い方の通貨の買いポジションでスワップポイントの支払いが生じる可能性があります。

【流動性リスク】

くりっく 365 で提示する為替レートには価格差（スプレッド）があります。くりっく 365 では、マーケットメイカーが買呼値及び売呼値を提示し、それに対してお客様が注文を発注して取引が成立する方式を取っています。状況（天変地異、戦争、政変あるいは為替相場の激変等）によって、マーケットメイカーによる買呼値や売呼値の安定的、連続的な提示が不可能または困難となることがあり、その結果、想定する価格で取引ができないなど、お客様にとって不測の損失が生じる可能性があります。また、一部の通貨において母国市場等の休業の場合には臨時に休場することがあります。更に、当該国の為替政策・規制による他通貨との交換停止や外国為替市場の閉鎖の措置がなされるなどの特殊な状況が生じた場合には、特定の通貨ペアの取引が不能となる可能性もあります。なお、平常時においても流動性の低い通貨の取引を行う場合には、希望する価格での取引ができないなどの不利益を被る可能性があります。

【コンバージョンリスク】

クロスカレンシー取引においては、決済が当該通貨ではなく円貨でなされることから、決済時に当該通貨の為替リスクの他に円との為替リスクがあります。

【ロスカットのリスク】

相場の変動により、有効比率が当社の定める基準以下となったことを当社が確認した場合、お客様の意思に関わらず、当社はおお客様の全ての未約定注文の取消及び全ての建玉の決済注文（ロスカット注文）の発注を行います。

ロスカットの場合でも、相場の急激な変動により損失の額が差し入れた証拠金の額を上回る可能性があります。

【情報リスク】

当社からご提供させていただく情報は、くりっく 365 の取引の参考としていただく資料です。その記載情報は、信頼性、正確性、完全性において保証されるものではありません。また、情報内容も予告なしに変更することもあります。

【その他】

取引所為替証拠金取引の売買は、クーリング・オフの対象とはなりません。取引所為替証拠金取引に関しましては、金融商品取引法第37条の6の規定の適用対象とはなりませんので、ご注意ください。

※くりっく 365 は、株式会社東京金融取引所の登録商標です。